いっしょに読むためのガイド

いつまでも… ピクセル

お別れ、思い出、そして残りつづける愛について、教室や家庭で話しあうための提案です。



作者	対象年齢	形式
マリア・ホセ・マルケス	4〜9歳	絵本

心の教育　子どもの悲嘆　教室と家庭

このガイドの内容

01 社会性と情動の学びのねらい
02 4〜6歳・6〜8歳・8〜10歳向けの活動
03 グループと個人でのふりかえりの問い
04 育つ社会情動的スキル
05 気持ちの用語集と参考資料

本について

1 授業の前にお話を知ろう

– 会話をひらく絵本 –

『いつまでも…ピクセル』は、猫のピクセルをうしなった男の子のお話をとおして、子どもの悲嘆をあつかう絵本です。あたたかな絵とていねいにつむがれた文章が、子どもと大人がいっしょに、お別れ、思い出、そして残りつづける愛について話せる場をひらきます。

作者	形式	対象年齢
マリア・ホセ・マルケス	絵本	4〜9歳

テーマ

- いのちの一部としての死
- 子どもの悲嘆
- 記憶と思い出
- 動物とのきずな
- かなしみとその表し方
- 消えない愛
- つらいときの家族の支え
- 時間とともに取りもどす喜び

> “どのお話も、大切な会話を、思いやりと共感をもってひらくことをめざしています。
> — EDITORIAL VÍNCULO

ねらい

2 社会情動的なスキルと力

ねらい

心の育ち
自分の気持ちに気づき、ふさわしいことばで表す。

道徳性の育ち
ほかの人の経験に共感する力を育てる。

社会・文化の育ち
いろいろな家族や生き方を尊重する。

伝える力
グループでの話しあいに進んで参加する。

育つ社会情動的スキル

気持ちへの気づき	かなしみ、愛、なつかしさなどの気持ちに気づき、名前をつける。
気持ちの調整	かなしみは大切な気持ちで、時間がかかると理解する。
共感	ほかの人の痛みに気づき、軽く扱わずに寄りそう。
アサーティブな表現	感じていることを、ことばを選んで伝える。
立ちなおる力	忘れずに、前へ進んでいけると知る。

はじめる前に・指導者のみなさまへ

悲嘆は、教室の中で思いがけず深くひびくテーマです。最近お別れを経験した子どもがいるかもしれません（ペット、家族、引っこしなど）。読む前に、安心できる場をつくりましょう。

- お別れと思い出についてのお話を読むことを、前もって伝える。
- 気持ちに正解・不正解はないことを伝える。
- 自分の経験を話さなくてもよいことを伝える。
- 強く心が動いた子は、信頼できる大人といっしょに教室を出てもよい。
- ティッシュを用意し、泣いてもいいことを伝える。

読む前の活動

3 絵本をひらく前に、心の準備をしよう

1 わたしのきずなマップ

10分

紙のまん中に、大好きな人や存在（人、ペット、大切なもの）を描きます。そのあと答えます。

- 名前は？ このきずなの特別なところは？
- いっしょにいるとき、どんな気持ち？
- もしある日いなくなったら、どうなるだろう？

✎ 小さい子には、最後の問いははぶいてもかまいません。絵を見せあう必要はありません。

2 気持ちのブレインストーミング

5分

黒板に「お別れ」と書きます。このことばからどんな気持ちがうかぶか、声に出してもらい、すべて書きとめます。評価はしません。

うかびそうな気持ち

かなしみ · こわさ · とまどい · いかり · なつかしさ
さびしさ · 愛 · 感謝 · おだやかさ（年長の子）

✎ 正反対に見える気持ちが出てくるのも自然なこと。どれも大切な気持ちです。

3 表紙から予想しよう

5分

題名を読まずに表紙を見せて、たずねます。

- 絵に何が見える？ 表紙の男の子はどんな気持ち？
- どんなお話だと思う？
- ペットを飼ったことがある人、飼っている人を知っている人はいる？

ふりかえりの問い

4 読んだあとに — グループに合わせて

4〜6歳

- 絵本の子猫の名前は？ どんな猫だった？
- 大切なものをなくしたことはある？ どんな気持ちだった？
- ピクセルがいなくなって、男の子はどう感じた？
- 男の子はピクセルを思い出すために何をしていると思う？

活動： ピクセルを想像して描こう。どうしてそう描いたか、友だちに話そう。

6〜8歳

- 題名の「ずっと」ってどういう意味？ ずっとつづくものってある？
- いなくなった人を思い出す助けになるものは？
- 男の子はかなしみをどうした？ どう表した？
- ピクセルに手紙を書くなら、何を伝える？

活動： 恋しく思う人やものに、手紙を書くか口で伝えよう。本当のことでも想像でもいいよ。

8〜10歳

- 忘れることと、手ばなすことのちがいは？
- 死のほかに、どんなお別れを知っている？
- 大人はどうして、子どもと死について話すのをさけることがあるのだろう？
- 本は、感じていることを受けとめる助けになるだろうか？

活動： 3人組で「思い出の箱」をつくろう。ずっととっておきたいものをひとりずつ書き、話したい人は話そう。

まとめと発展

5 教室と家庭で学びを深めよう

教室で

思い出の本

クラスで1冊の本をつくります。ひとりずつ、思い出したい人やもののページを1枚つくります（絵、写真、短い文など）。とじて、クラスの宝物として教室に置きましょう。

ならわし

ことばの輪

輪になってすわり、やわらかいもの（ぬいぐるみやボール）を回します。持っている人は、話したければ、お別れの経験や思い出を話します。ほかの人は静かに聞きます。最後に指導者が感謝のことばで終えます。

書く

未来への手紙

10年後の自分に手紙を書きます。「今感じていることについて、10年後の自分に何を伝えたい？」手紙は封をして保管します。

家庭で

家族とのつながり

宿題：信頼できる大人に、はじめて大切なものや人をうしなったときのことをインタビューし、次の授業で学んだことを話しあいます。

計画にあたって

- このガイドは、低学年の話すことの学びと、社会性と情動の学びを支えます。
- 活動の土台は心の育ち——気持ちに気づき、名前をつけ、表すことです。
- 45分×2〜3回の単元として活用できます。

用語集と資料

6 話しあいを支えるヒント

悲嘆	大切なものや人をうしなったときに経験する自然なこころの動き。病気ではなく、愛のかたちのひとつです。
なつかしさ	過去のものを、愛情をこめて恋しく思う、ほろ苦い気持ち。
思い出	もういない人やものについて、心と頭にのこしているすがたや気持ち。
きずな	人と人、人と動物のあいだに、愛情・思いやり・信頼があるときに生まれる特別なつながり。
かなしみ	その人やものが自分にとって大切だったと教えてくれる大切な気持ち。急がせたり、かくしたりしなくてよいもの。
立ちなおる力	つらいことのあとも、経験を忘れずに前へ進んでいく力。

おすすめの参考資料

絵本 · 『死神さんとアヒルさん』ヴォルフ・エァルブルッフ

絵本 · 『ラヴ・ユー・フォーエバー』ロバート・マンチ

絵本 · When Dinosaurs Die · L. K. ブラウン

映画 · 『リメンバー・ミー』ピクサー

映画 · 『カールじいさんの空飛ぶ家』冒頭

アプリ · Headspace Kids — 短い瞑想

このガイドを使ってみましたか？

ぜひ感想をお聞かせください。SNSやメールでの声が、よりよい教材づくりにつながります。

→ editorialvinculo.cl

→ contacto@editorialvinculo.cl

→ @editorialvinculo